

コラム 芍薬甘草湯は筋肉痙攣に速効性があるのか？

通りすがりの薬剤師 足立博一

私は元職場の医療機関の山の会で時々登山をしているのですがOBも多い高齢者山の会のため薬を処方されている者も多く登山の際に役立ちそうな残薬を持参してきます。中でも役立つのが芍薬甘草湯エキスです。昨年秋の立山登山の下山時にメンバーの1人が足の痙攣（こむら返り）を起こして動けなくなりました。この時、本人の残薬の芍薬甘草湯を1包服用すると5分程度で回復したのですが、いつもと違いすぐに痛みを伴う痙攣が再発しました。痛みがあるならロキソプロフェン錠も追加すればと、これまた本人の残薬1錠を服用するとまもなく本人曰くスーと楽になったと言いながらゆっくりペースで下り始め、やがて本来のペースで下山できました。その時、私は芍薬甘草湯の速効性の鎮痙作用とロキソプロフェンのやや遅れて出てくる鎮痛作用がうまくかみ合ったからだと解説したものです。

私は山の会での芍薬甘草湯による速効復活劇を何度も見ているので速効性があるという客観的な経験は蓄積されています。そのほか速効性関連の知見では古来より痙攣性疼痛に速効性のある漢方薬として頓用で利用されてきたこと。透析患者の筋痙攣に使った時に疼痛消失まで 5.4 ± 3.9 分という臨床報告。富山大学と漢専門医師講演で効果発現は15分前後と早い芍薬主成分ペオニフロリンの血中出現は服用30分後なので別の成分が速効性に関与するだろう、鎮痙作用の持続時間は2～3時間と短いため予防的な投与には適さず、また継続投与は甘草量が多いので偽アルドステロン症のリスクがあるという解説。ツムラ担当者から服用数分後に血中に現れる成分があるが速効性との因果関係は不明という解説。等々から速効性は確実そうです。一方で痙攣が起きた際に痙攣筋肉を伸ばす等の対処もするので、その効果が早く出て芍薬甘草湯の効果を早く感じただけと懐疑的に考える医療関係者もいます。さて皆さんはこれまでの経験から芍薬甘草湯に速効性があるとお考えでしょうか？

ところで2025年9月に第一三共ヘルスケアから第1類医薬品の鎮痛薬が発売されました。この製品は昨年立山の下山時にちょうど経験したロキソプロフェンと芍薬甘草湯に酸化マグネシウムを加えた配合剤になります。ただし1回量のロキソプロフェンは60mgと医療用と同量ですが、芍薬と甘草は1回分の原生薬量と比較すると医療用芍薬甘草湯エキス剤が2gずつ、今回の第1類医薬品は252mgずつと約10分の1量しかありません。これではせっかく配合した芍薬と甘草の量が少なすぎて薬効は期待できずロキソプロフェンの薬効だけが際立つだけではないか？と思われませんか。

〈著者プロフィール〉

足立博一（あだちひろかず）薬剤師、薬学博士。1980年金沢大学薬学部修士課程修了。1980年富山医科薬科大学（現富山大学）附属病院薬剤部入職。1994年サンウッド薬局（現アイン薬局）入職。1997年富山協立病院薬剤科入職。2002年（一社）ふれあい薬局入職。2005年(株)あだちPAS企画設立。1994年から富山大学薬学部非常勤講師兼務。2024年11月70歳を機に引退。著書：知って納得！薬のおはなし（幻冬舎ルネッサンス新書）。